



自社農園のメルロー、シャルドネに今シーズン1回目の防除を実施しました。

4月の後半になると、ぶどうの木芽が膨らんできます。その頃を見計らって、ぶどうの木全体を消毒します。この時期の防除は、ぶどうの木に付着した害虫を駆除すると、芽の回りに付いて越冬した病原菌を取り除くためです。

冬の寒さで枯れてしまう木もあります。今年は暖冬でしたが、ぶどうの木がこうして眠りから覚め、無事に春を迎えてくれた姿を見るとほっとします。



4月23日のメルロー

写真撮影・文/原料・果樹試験課
青沼 豊晶

◆(株)アルプスでは、ぶどうの搾汁残渣から堆肥を作っています。



堆肥置き場

秋、ぶどうの搾汁残渣は、堆肥置き場に運ばれ、酵素を散布し、積み上げられます。切り返しを繰り返すと、春には完熟堆肥になります。



切り返し

出来上がった堆肥は、出荷組合の皆さんのところへ配布され、ぶどう園に還元されます。ぶどうの粒が大きくなった、収量が増えたなど堆肥の評判は上々です。

今年も3月下旬、配布しました。



出来上がった堆肥



ダンブで配布